2月5日号
第2660号
2004年（平成16年）
（昭和24年5月10日　第三種郵便物認可）

海上保安新聞

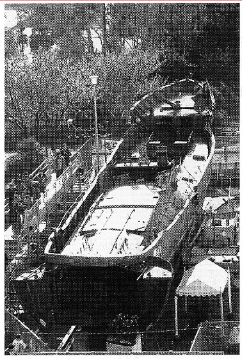
発行所　財団法人　海上保安協会
〒104-0045　東京都中央区築地5－3－1
電話　03－3542－3678～9
FAX　03－3541－9085
E-mail:kaiho-shinbun@jcga.or.jp
（毎週木曜日発行）
購読料　月極610円　送料共

しなやかな発想で21世紀
Nissho
日昇印刷株式会社
〒104-0043　東京都中央区湊1－14－14
TEL　03－3553－3161～4
FAX　03－3551－4898

工作船、横浜で保存

海上保安協会
海上防災基地　海上保安庁の協力で

北朝鮮の工作船は横浜へ――。東京で一般公開されている工作船は展示の終了後に、三管本部の横浜海上防災基地で長期保存される。公開と保存への活動を行っている㈶海上保安協会が、海上保安庁の協力を得て選定した。「事件を風化させないためにも、多くの人に見てほしい」と、全国からの見学者の交通利便、工作船の運搬費など地理的条件を考慮した。2月15日までの公開も残りわずかとなったが、見学者は156万人を超えている。拉致事件、ミサイル・核問題など北朝鮮をめぐる国際情勢で、関心が高まった。工作船を展示するため、防災基地には全長約40㍍の屋根付き建物が建設される。ドーム式、テント式、倉庫式など建物の形体が、関係機関を含めて検討されている。



東京の「船の科学館」で公開されている工作船

工作船は昨年5月末から東京・お台場の「船の科学館」で公開され、全国から旅行ツアーなどで訪れた見学者は、約8カ月で156万人を超えた。修学旅行のコースにも利用されるほど関心が高まり、子どもからお年寄りまでが1日平均1万人訪れた。予想以上の反響に、9月末までの期間が今年2月まで延長された。

海上保安協会は見学者らからの「現実を多くの人が見られるようにしてほしい」という声に、保存への活動を展開。海上保安庁も「海上保安活動に対する国民の理解を深めてもらうためにも」と、長期保存地の選定などを、同協会に協力して検討してきた。

全国から「関西でも工作船を見たい」「観光地の目玉にしたい」など、工作船誘致の問い合わせもあった。同協会は「運搬費や全国から訪れる見学者の交通利用など考えると横浜が最適地」と、最終的に防災基地を選んだ。2月1日には地下鉄「みなとみらい線」が、横浜駅から元町・中華街駅まで開通したため、防災基地へは日本大通り駅と馬車道駅が利用できる。

防災基地は、横浜市が公園整備した赤れんがパークと隣接しており、週末の同パーク周辺は家族連れや若者たちでにぎわいをみせる。地下鉄は東急東横線が相互乗り入れするなど東京、首都圏からの利便もよく、工作船が保存されれば、新たに関心が持たれることになる。

9カ月以上海底に沈んでいた工作船は腐食が激しく、長期保存には屋根付きの展示室で、費用も数億円がかかると予想されていた。海上保安協会には、一般公開の見学者や企業、海上保安庁関係者などから保存への支援募金が寄せられているが、目標の建設資金には追いつかない。

工作船の全長は約30㍍。船尾には小型舟艇が格納されていた。計画では、搭載されていた対空機関銃や対戦車ロケットランチャーの発射装置など武器類の展示室を入れると、建物の長さは40㍍にもなる。見学者が船の内部も見られるように、階段式の見学コースを作ると建物も高くなるため、建物の形体が今後の課題。テント式、ドーム式、倉庫式などが検討されている。再公開までには数カ月かかるとみられる。

屋外の公開で工作船は錆や塗装のはがれも著しかったが、長期保存に備えて昨年12月中旬、協会が本格的な防錆作業を行った。2月16日から、横浜へ向け移設作業が行われる予定。

また、保存への支援募金は横浜に移設後も続けられる。海上保安協会は、全国に協力を呼びかけている。

工作船保存募金の問い合わせは〒104−0045　東京都中央区築地5の3の1、㈶海上保安協会（☎03・3542・3678）。

募金口座は、郵便振替口座00190−7−333114、海上保安協会工作船保存募金（手数料は協会負担）。

命守る　空飛ぶ海の救急隊

福岡航空基地機動救難隊　出動100件に到達

福岡航空基地の空飛ぶ海の救急隊「機動救難隊」の出動件数が1月26日、大分県津久見湾での漁船乗組員の海中転落事故で100件に達した。翌27日にも海中転落者の捜索をしている。

機動救難隊は、九州北部周辺の沿岸海域での迅速・的確な救急救難体制を強化し、遭難者の救助率向上のため、平成14年10月1日、海上保安庁初の組織として、福岡航空基地に発足した。潜水やレンジャー救助技術の資格を持つ機動救難士4人（2人1チーム）からなり、1チームのうち1人は救急救命士の資格を持つ。

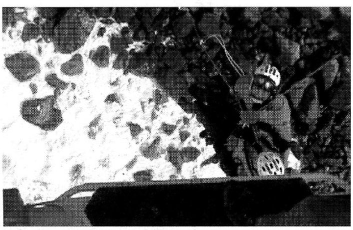
海難や海浜事故が発生した場合には、ただちにヘリコプターで出動する。ヘリコプターから降下して捜索救助。傷病者を吊り上げ救助して、救急車や病院へ引き継ぐまで、医師と連絡を取りながら、機内で気道確保や除細動器による救命措置を行う。

発足以来、行方不明者の捜索、船内負傷者や病人の吊り上げ救助・搬送、船舶火災など、4～5日に1回は出動している。

初救助は、平成15年1月23日。福岡県筑前大島沖を同県苅田港から韓国向け航行していた韓国籍プッシャーバージから、左半身の動かない乗組員を吊り上げ救助し、福岡空港で救急車に引き継いだ。その後も、海難や事故に出動し、これまでに吊り上げ救助した人数は9人に上る。

昨年10月30日には、山口県萩市大島の漁船乗り揚げ事故に出動。断崖直下のためヘリコプターが近寄れず、機動救難隊は200㍍離れた場所に降下。ロープ1本につかまっていた船長を確保し、磯波に洗われる中、船長を背負って降下位置まで運び、吊り上げ救助した。

機動救難隊は日々、潜水、レンジャーの厳しい訓練や、救急救命の研修を行って、事案発生に備え、いつでも対応できる体制を整えている。



漁船船長を吊り上げ救助する機動救難隊員（昨年10月30日、山口県萩市で）

全国の気象・海象情報　DGPSで提供

16年度中に運用を開始

試験運用は7月に開始

海上保安庁は平成16年度から、全国各地の灯台などで観測された気象・海象情報を、ディファレンシャルGPS（DGPS）の電波でも提供するサービスを開始する。7月に試験運用を開始、10月から正式に運用する予定。

気象・海象情報は、海上交通センターや保安部の沿岸域情報提供システム（MICS）が、インターネットやテレホンサービスなどで提供しているが、DGPSの電波利用サービスは、測位と気象情報が同時に分かるため利用者の利便性が向上する。

気象観測は123カ所。通報は1局あたり6カ所。時刻、観測所、風向、風速、気圧、波高のデータを30分ごとに更新する。データはDGPS受信機などのディスプレー上に文字情報として表示されるが、文字情報の受信、表示に対応していない機種は利用できない。

ディファレンシャルGPSは、米国の衛星からのGPS信号を正確に位置が分かる基準局で受信、測位した位置との誤差を計算して補正値を放送局から放送し、測位精度を向上させるシステム。規格は世界共通で、海上保安庁は全国に27の放送局を配置。日本沿岸全域を対象に、GPSの精度（約10㍍）を1㍍以下にまで補正し、同時にGPS衛星の故障などの異常発生を船舶に提供している。

万景峰92号今年初めて新潟入港

北朝鮮貨客船「万景峰92号」（9、672㌧）が1月28日午前、風雪厳しい新潟港西区中央ふ頭に入港、29日午前に北朝鮮元山向け出港した。今年初めての入港。入国者は138人、出国者は8人と少なかった。次回は4月以降とみられている。

新潟保安部は、万景峰92号入港警備本部を設置。巡視船「えちご」「つるぎ」、巡視艇「ゆきつばき」と新潟航空基地のヘリコプターで、厳重な海上警備を行った。入出港時には税関・入管と合同で、船内全区画などを厳重検査した。

対北朝鮮経済制裁法案の国会審議、6カ国協議の第2回開催、拉致被害者家族の帰国の実現化などがクローズアップされている時期の入港。岸壁上には報道関係者が待ち受け、拉致被害者の支援団体の関係者約30人が、横断幕を掲げてシュプレヒコールを繰り返し、抗議集会を行った。

平成15年の新潟港への入港回数は10回（前年21回）、入国者は1510人（同4238人）、出国者は1623人（同4379人）だった。（新潟）

潮流

▼一年で一番寒い季節だというのに、家の近くの公園で、梅が白い花を咲かせている。寒さに耐えて春を待つ。「春告草」と呼んだ人たちと、心がつながっていると感じた。気象庁によると、東京の今年の梅の開花日は1月21日。昨年より3日、平年より8日早い。高松市では平年より18日も早かったという▼日本人にとって、花といえば梅だった。万葉集には118首も詠まれている。桜は3分の1の42首。桜が花の代名詞になるのは、武士の時代になる中世以降だという。「色よりも　香こそあわれ」と歌われるように、梅は花よりも香りを愛された。出勤を急ぐ私には、公園の梅の香りは届かなかったが▼多くの人にとって、嗅覚から得る情報は少ない。生きていくための情報の80％以上を、視覚から得るという。様々な展示は、その視覚に訴えて、想像力を働かせてもらう。北朝鮮工作船の保存場所が決まった。多数の人に、目で確かめてほしい。それとともに、保存が不用になる時代が来ることを信じたい。「梅一輪　一輪ほどの　あたたかさ」が、国際情勢にも……。

週間海難情報

1月26日（月）～2月1日（日）

今週、海上保安庁が救助した船舶、人命は3隻、7人だった。

種類別	隻数
衝突	18
乗り揚げ	5
転覆	4
火災	2
爆発	0
浸水	1
機関故障	4
推進故障	1
舵故障	0
行方不明	0
その他	2
計	37